

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500697		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホームコスモス		
所在地	群馬県太田市藤久良68-5		
自己評価作成日	平成26年4月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年6月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族との連絡を密に取り、信頼関係を築いている。 急変時の対応は、主治医と連携が取れており、柔軟に対応できる。 リハビリによる、筋力低下の予防に力を入れている。 一人一人の、出来ることを生かした支援。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、住宅地の中にあり洋風の建物の周囲には花壇が設けてあり、四季の花が咲き乱れている。建物の食堂や廊下からは中庭が見渡せ、放し飼いされた犬と会話している微笑ましい利用者の姿も見られる。近隣住民との関係は良好で、理事長は自治会のすべての行事に参加し、事業所存在のアピールに繋がっている。清掃の行き届いた清潔感のある明るいホールにはAEDが設置され、すべての職員が講習を受け、その使用方法をマスターしている。医療面においては、協力医や訪問看護との連携がなされ、夜間の緊急時においても利用者は安心して医療を受けることが出来る。また、理学療法士による計画が立案され、定期的に評価し筋力低下の予防に努めている。利用者一人ひとりに合わせた居室の環境づくりや、本人の希望や意向を大切に考えた支援が行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に地域住民との交流、相互理解を深めていく事を入れており、毎朝の申し送り時に唱和し、職員一同の意識を共有し実践している。	理念はホールに提示されており、毎朝の申し送り時に唱和され、理念とは何かを共有し実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動、廃品回収、地区運動会、餅つき大会 地域のお祭り等、多種の行事に参加させて頂いています。天気の良い日は散歩に出かけ、地域の方との交流を楽しんでいます。	地域で行われるイベントには、理事長が積極的に参加し、お祭りでは玄関前で祭りの接待を行うなど、地域との関係が築かれている。毎日の散歩では挨拶を交わすなど、日常的に交流がなされている。また、近隣小学校の児童見学受け入れ・高校や小学校での講演も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議等を活用して、地域のお年寄り、独居の高齢者に対し、どんな事が出来るか話し合いながら、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告やサービスの内容について報告し、意見交換を行い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、地区長始め民生委員が参加、毎回家族の参加も多く、意見交換が行われている。会議では、参加者から地域の人が介護について相談できるよう看板の設置の提案があり、検討が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市役所の担当課へ出向き、意見交換や電話相談もしている。	市の担当者は運営推進会議に出席しているため、相談しやすい関係にあり、特に介護保険で判断に迷う時には、市に出向いて相談をするなど、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り身体拘束ゼロを目指して取り組んでいるが、安全の為、やむを得ず玄関の施錠や転倒防止の為、オーバーテーブルを使用している。	状況に応じてベットの上下りの位置にセンサーマットを使用し、安全確保に努めており、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのテキストを購入し、職員一同で勉強会をして、学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度、以前利用されている方おり制度について理解しているが、今後、職員全員で学ぶ機会を持っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用者、家族が納得できるまで十分説明を行っており、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族が気軽に意見を言える関係作りに努めている。2ヶ月に1度の運営推進会議でも意見交換を行っている。	これまでに意見箱の利用はなく、面会時に声かけをして聴取に努めている。その他、運営推進会議での意見交換を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様の対応、運営に対する相談や環境整備等についても随時相談を受け検討するようにしている。	利用者のケアのことや業務に関することなど、職員から理事長や管理者へ意見は言いやすい関係にあり、理事長・管理者はできるだけ早い対応を心がけている。最近では、ソファの購入をするなど、職員の意見や提案が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を持ち、向上心を持ってもらえるように助言をすると共に、環境整備も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種必要な研修に参加すると共に、個人で参加できる研修の紹介などしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族が職員に気軽に意見や要望を言える信頼関係を築いている。家族には面会やプラン説明の時などに、意見、要望を聞き対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に施設見学をして頂き、環境や雰囲気を見て頂く。本人の不安や要望等を良く聞き出す努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としているサービスを見極め、グループホーム以外の施設も視野に入れて、ケアマネも含めて、入所決定前に本人に合ったサービスについて、十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは手伝って頂き、料理などを教えて頂いたり、昔の話をしたりと本人の得意分野を活かせるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院や外出時に家族の協力が得られる時は、同伴を依頼しています。施設行事(誕生会、夏祭り)にも可能な限り参加して頂き、また面会時、日々の様子をお伝えし、情報の共有化を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、外出により馴染みの場所へ訪問することや、馴染みの人との関係が、途切れないように支援している。	家族の訪問が比較的に多く、同級生の訪問もある。家族等の協力を得ながら美容室へ行く人・教会に行く人など、馴染みの人や場所との関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関わりはトラブルが起きないように配慮しながら見守っている。ホールの席などトラブルが起きないように相性を見ながら工夫し、必要があれば、席替えをして仲良く過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じていつでも相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人の希望、意向をアセスメントし、把握している。困難な場合は家族の意向を交え、本人本位に検討している。	外出に出かけたり、外気浴をしたりなど、希望や意向に沿い本人本位に検討し支援している。また、食べたいものなどを把握し、柏餅の材料と一緒に買いに出かけ、職員と一緒に作り楽しんでいる。意思表示の難しい人には、会話や広告を活用して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントで今までの生活歴など、現在までの経過を把握している。センター方式も活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さん一人一人の心身状態、有する能力等、現状を把握し職員全員が情報を共有化し、その人にあったケアサービスの提供ができるよう勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためのケアのあり方について、本人、家族、スタッフと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	家族に意向を聞き、ケア計画が作成されている。ケア記録には、計画に添ったケアを行うなか、その都度アセスメントの記録をし、次のケアや計画に活かされている。職員同士の情報交換が密になされ、計画までの一連の流れを職員全員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で情報を共有できるよう、日々の様子、ケアの実践、結果、利用者の変化等を記録し、日々の支援や介護計画の見直しなどに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応して、柔軟な支援やサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に、誕生会などの時に催しものをして頂き、利用者に楽しい時間を提供していただいている。地域の学童クラブとの交流も行っている。必要に応じて訪問歯科等訪問美容等もお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族より納得が得られたかかりつけ医により、月一回定期的に受診している。緊急時、急変時にはすぐ、医師に連絡を取り、対応できる体制になっている。	本人のかかりつけ医に受診し、月に1回協力医の往診がある。訪問看護の訪問が週1回あり、医師・訪問看護の連携を行い、夜間の緊急時には対応可能とし、安心した適切な医療を受けることが出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護しが来所しており、気になる症状などを相談し問診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	時々、様子を見に行き情報交換をしている。家族の希望があり、医師の支援がある場合は、退院してもらい、当施設で療養していただける支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベル低下が著しく見られる場合、かかりつけ医より、今後、起こりうる状態について家族によく説明して頂き、家族に今後の意向を聞き、当事者全員で話し合い、方針をきめている。	入居時に、看取りについて家族に説明し方針を共有している。これまでに看取りの経験もある。AEDの設置をし職員は講習会を行い、緊急時の対応に備えている。協力医との連携も良好であり、今後も重症化した利用者のケアは、関係者全員で取り組む体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、定期的に学ぶ機会を持っている。AEDの使用法や心肺蘇生法など。救急車の呼び方、対応などを職員に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、春、秋に通報、避難訓練、消化訓練を実施し、利用者の非難状況を把握している。	消防署と消火設備会社の指導の基、年2回夜間を想定した訓練が行われている。災害時に応援してくれる意思のある方もいるが、訓練に近隣住民の参加は得られておらず体制は築けていない。備蓄は、施設長の自宅に水・缶詰・米・布団・懐中電灯がある。	災害訓練時に、近隣住民の参加を頂けるように更なる努力をし、地域の協力体制が築けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、個人にあった声掛け、対応を行い、プライバシー、プライドを損ねる事のないよう、配慮している。	一人ひとりの思いや人格を尊重し、何気ない声かけを行い、トイレ誘導・介助を行っている。また、プライドを損なうことのないよう対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い人には耳元で話しかける。わかりやすく、ゆっくり丁寧に説明するなど、個人に合わせた対応を行い本人の意思を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にし、その人らしい生活を送れるよう支援しています。本人の体調など様子を見ながら声掛けし、今日はゆっくり休みたいなどの希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、ご家族に、本人の好む物を用意して頂いています。定期的に訪問美容が来て、好みのヘアスタイルをオーダーしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の好みを把握し、苦手なものは代替して提供している。個人に合わせて形態も異なる。また、職員が検食しており味や固さ等毎回チェックしている。	介護度が高く、食事介助を必要とする利用者が多いため、職員と一緒に食事することは難しい状況にあり、現状では理事長が毎回食事を共にしている。そうしたなか、好みのものを聞き柏餅の材料を行ける方で買いに行ったり、後片付けをしたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に応じた食事量を提供している。水分摂取が不十分な場合は、好みの飲み物で対応したり、むせやすい人はトロミをつけるなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合った口腔ケアを行っている。残菌のない方であればいいが出来ない方は、スポンジブラシやガーゼを使用し清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、失禁しないようトイレ誘導を行い、日中はおむつを外すように努めている。入院時のおむつ使用者も、退院後はおむつを外せるように努めて、自立した生活が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す為、水分補給を強化したり、冷えた牛乳を提供しています。腹部や肛門周辺をマッサージして、排便を促しています。必要に応じて、医師の処方した便秘薬を内服しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人の希望や気分に合わせて入浴の声掛け、支援をしている。また、体調、ペースに合わせ、気持ちよく入れるよう支援している。	入浴は、週3回午前中に行い、すべての利用者が個別に入っている。入浴拒否があるときは、声かけをし、体調などを見た上で入浴日を変更するなど、気持ちよく入浴して頂けるように努めている。また、入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調に合わせて、居室で休息されています。夜間、気持ちよく安眠できるよう、昼間の活動を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人一人が内服薬について理解しており、変更があった場合は、一週間ほど、症状の変化、副作用がないか様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合った、役割分担により、得意分野をいかした作業で張り合いをもって頂けるよう支援している。天気の良い日には散歩に出かけ気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所への散歩、受診、買い物等、希望に添った外出支援をしている。また、家族に協力してもらい、希望の場所へ連れて行っていただいている。	夜勤明けの職員が、施設周辺を毎日利用者と散歩している。利用者が皆公平に外出できるようにチェックを行いながら、スーパーへおやつや材料を買いに行ったりしている。また、家族や親せきが見えた時には、外食に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、盗難、勘違いなどによるトラブルを防ぐ為、自己管理できる方以外は、事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員見守りにて、自由にかけている。手紙は本人宛の物は、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内外は季節の花々で飾られており、季節感を感じられるようにしている。照明は目に優しい暖色を設置し、トイレは自動点滅式。暖房は床暖房完備。	共用空間を取り囲むように居室があり、廊下が回廊になっているので、どこからでも洋風仕立ての中庭が見える。庭には季節の花が咲きほこり、その中に犬が放されており、利用者の話し相手にもなっている。すっきりと整理され、片隅にソファが置かれてゆったりと過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼、ホールは、食事の時以外は、自由にお過ごし頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具等は、使い慣れたものを好みの配置にして頂いている。居室に植木鉢や花瓶を置き、毎日、手入れをしている方もいる。	入口には、バラをあしらったプレートに「〇〇通り〇〇番地」と表札があり、室内には個々に合ったカーテンやブティックハンガーなどを配置している。備え付けのクローゼットは広く、室内は整理整頓され、居心地良く過ごせる環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、ホール等、自力歩行がでが自操作がゆったり出来るようになっている。自分の居室が分からない方には、大きく書いた名札をドアにかけ、分かりやすくしている。		